# 溫泉上昇が附近地溫に及ぼす影響範圍に就て

理學士 岡本元治郎

### 緒 言

鉛直なる温泉の導管がある場合に其の影響を受けて附近地層での温度分布が如何になる か、又如何なる範圍まで其の影響が及ぶかの問題に就いて論究する。

鉛直なる導管の泉底にある被壓溫泉水の層が水平にして,常に一定溫度に保たれて居る 場合を考へる。又地表では輻射や空氣の傳導があつて,其の為の冷却熱量は地表の溫度と 其の附近の氣溫との差に比例すると假定する。地中では導管と地層との境界面に於て熱の 受授があり,其處では兩者の溫度が一致して居る。而して導管の影響は非常に遠方までは 及ばぬこと勿論である。

斯くの如き場合に地層に於ける溫度分布を表はす式を求める。次に之を實際に適用する 上に便宜な式に更める。 夫れに依つて實例に就いて導管附近の地層 での 溫度分布を計算 し,其の影響が地層の如何なる範圍まで及ぶかを檢討する。

### 1 基本式及び境界條件

圖1に示す如く地表から h の深さに溫泉水の恒溫層があつて其の上に半徑 ro なる圓柱



形の鉛直なる導管がある場合に於て,其の 附近の地層での温度分布を求める。地層は 均一で途中には別に他の熱源はないものと する。

導管の中心軸を上方に z 軸をとり,水平 の方向に r 軸をとる。又導管内の溫度を 6 とし,地層での溫度を T とする。さすれ ば地層に於ける定常狀態での熱傳導の式は

(192)

### 温泉上昇が附近地温に及ぼす影響範圍に就て

次に導管と地層との境界面に於ける熱の受授に就いての關係式を求める。 導管內での溫泉水は一定の速さ v にて上昇するものと考へられる。夫がために長さ dz の部分に dt 秒間に蓄積される熱量 Q₁ は

茲に  $\rho$  は溫泉水の密度, , は其の比熱 に して q は單位時間毎の溫泉の湧出量に て q = $\rho\pi r_0^2 v$  である。

導管內の水中でも熱傳導によつて鉛直方向に多少の熱移動はあるが,水の熱傳導率は甚小であるから Q<sub>1</sub> に比して無視する。又管內溫度の水平分布は導管の半徑が小であるから 大略一様と考へて,0 は z のみの函数と看做すことにする。

導管と地層との境界面に於て管の長さ dz の壁を通じて dt 秒に與へ得る熱量 Q₂ は, 地層での熱傳導率を l とすれば次の如く與へられる。

定常狀態に於ては導管内にて蓄積される熱量が全部地層へ與へられると考へるべきである。それ故に式(i)及び(ii)から次の關係が成立しなければならぬ。

$$\frac{d\theta}{dz} = \frac{2\pi r_0 k}{cq} \left| \frac{\partial T}{\partial r} \right|_{r=r_0}$$
 (2)

泉底 (==0) の溫泉水の層での溫度は一定値 % に保たれて居ると 考へられるから, 次の條件が滿足される。

地表に於ては熱の輻射傳導があつて、冷却熱量は地表での溫度と附近の氣溫 θ'との差に 比例すると假定する。即ち

$$\left|\frac{\partial T}{\partial z} + \lambda (T - \theta')\right|_{z=\hbar} = 0, \quad \lambda > 0$$
 .....(4)

地層の遠方では温泉の影響がなく水平方向での温度勾配が零であると考へられる。即ち

(193)

### 溫泉上昇が附近地溫に及ぼす影響範圍に就て

導管と接する地層での温度は o(z) に一致しなければならぬ。即ち。

### 2 解 法

地層での溫度 T(r, z) を次の如く T'(z) 及び T"(r, z) に分つて求めることにする。 卽ち

[1] 温泉の導管の影響なき場合に於ける地層の温度を T'(z) とすれば T'(z) が満足す べき微分方程式及び境界條件は次の如くである。



[II] 溫泉の導管の影響に依る 地層での 温度を T''(r, z) とすれば T''(r, z) が満足す べき微分方程式及び境界條件は次の如くである。

$\frac{\partial^2 T''}{\partial r^2} + \frac{1}{r} \frac{\partial T''}{\partial r} + \frac{\partial^2 T''}{\partial z^2} = 0$	(1")
$ T'' _{z=0}=0$	······(3 <sub>1</sub> ")
$\left  \frac{\partial T''}{\partial z} + \lambda T'' \right _{z=\hbar} = 0 \qquad \dots \dots$	(4")
$\left  \frac{\partial T''}{\partial r} \right _{r=\infty} = 0.$	(5")

斯くの如く考へれば T(r, z) = T'(z) + T''(r, z) は微分方程式(1)の解にして,境界 條件(3<sub>1</sub>),(4),及び(5)を満足することとなる。 [I] から T'(z)を求めれば容易に次の解が得られる。

[II] から T<sup>''</sup>(r, z) を求めるために次の正弦級数を考へる。

(194)

茲に 
$$\beta_s$$
は  $\cot \beta_s h = -\frac{\lambda}{\beta_s}$  の s 番目の正根にして,  $C_s \ge \Phi_s$  とは  
 $C_s = \frac{1}{1 + \frac{\cos^2 \beta_s h}{\lambda_h}}, \quad \Phi_s(r) = \int_0^h T''(\xi, r) \sin \beta_s \xi d\xi \quad \dots \dots (ii)$ 

然るに境界條件(4")を滿足するから

である。それ故に $\frac{\partial^2 T''}{\partial z^2}$ は次の如く與へられる。

又同様にして次の展開が得られる。

式 (iv), (v), 及び (vi) を式 (1") に代入して次の微分方程式が得られる。

$$\frac{d^{2}\Phi_{s}}{dr^{2}} + \frac{1}{r} \frac{d\Phi_{s}}{dr} - \beta_{s}^{2}\Phi_{s}(r) = 0 \quad (s=1, 2, 3, \dots) \quad \dots (1_{s})$$

此の微分方程式の一般解は

に與へられる。然るに $\left|\frac{\partial T''}{\partial r}\right|_{r=\infty}=0$ なる境界條件が満足されるから  $B_s=0$  である。 依つて

從つて境界條件 (3"1), (4"), 及び (5") を満足する微分方程式 (1") の解は次の如く與 へられる。

式 (7') 及び (7") から

$$T(r, z) = \theta_b - \frac{\lambda h}{1 + \lambda h} (\theta_b - \theta') - \frac{z}{h} + \frac{2}{h} \sum_{s=1}^{\infty} C_s A_s K_0(\beta_s r) \sin \beta_s z$$
.....(7)

(195)

之を式(2)に代入して兩邊を z に就いて積分し, 10 | z=0=0% なる境界條件を滿足する 様に積分常數を決定すれば次の結果が得られる。

$$\mathfrak{o}(z) = \mathfrak{o}_b - \frac{2\pi r_0 k}{cq} \cdot \frac{2}{h} \sum_{s=1}^{\infty} C_s A_s K_1(\mathfrak{g}_s r_0) (1 - \cos \mathfrak{g}_s z)$$
(8)

次に積分常数  $A_s$ を決定せねばならぬ。そのために  $\theta(z)$  及び  $-\frac{z}{h}$  を式 (7'') と同様の正弦級數に展開する。

$$\theta(z) = \theta_b - \frac{2}{\hbar} \sum_{s=1}^{\infty} C_s^{\prime} \{ \int_0^{\hbar} [\theta_b - \theta(\xi)] \sin \beta_s \xi d\xi \} \sin \beta_s z, \qquad \dots \dots (ix)$$
$$- \frac{\lambda \hbar}{\lambda \hbar + 1} (\theta_b - \theta') - \frac{z}{\hbar} = \frac{2}{\hbar} \sum_{s=1}^{\infty} C_s^{\prime} \Big[ (\theta_b - \theta') - \frac{\cos \beta_s \hbar}{\beta_s} \Big] \sin \beta_s z.$$

式 (x) を式 (7) に代入すれば

$$T(r, z) = \theta_b + \frac{2}{\hbar} \sum_{s=1}^{\infty} C_s \left[ A_s K_0(\beta_s r) + (\theta_b - \theta') \frac{\cos \beta_s \hbar}{\beta_s} \right] \sin \beta_s z$$
.....(xi)

境界條件 | T(r, z) |<sub> $r=r_0</sub>=0(z) に式(ix) 及び(xi) を代入して次の 關係式が得られる。</sub>$ 

$$A_{s}K_{0}(\beta_{s}r_{0}) + (\theta_{b} - \theta') \frac{\cos\beta_{s}h}{\beta_{s}} = -\int_{0}^{h} [\theta_{b} - \theta(\xi)] \sin\beta_{s}\xi d\xi$$
  
(s=1, 2, 3, .....(9<sub>s</sub>)

此の式の右邊に於ける積分は式(8)を適用して次の如く得られる。

$$-\int_{0}^{h} \left[ \theta_{b} - \theta(\xi) \right] \sin \beta_{s} \xi d\xi$$

$$= \frac{2}{h} \sum_{m=1}^{\infty} \frac{2\pi r_{0}k}{cq} C_{m} A_{m} K_{1}(\beta_{m} r_{0}) \left[ \frac{\cos \beta_{s} h - 1}{\beta_{s}} + \frac{\beta_{s} \left( 1 - \cos \beta_{m} h \cos \beta_{s} h \right) - \beta_{m} \sin \beta_{m} h \sin \beta_{s} h}{\beta_{s}^{2} - \beta_{m}^{2}} \right] \qquad \dots \dots (xii)$$

之を(9。)に代入して次の式が得られる。

$$A_{s}K_{0}(\beta_{s}r_{0}) + (\theta_{b} - \theta') - \frac{\cos\beta_{s}h}{\beta_{s}}$$

$$= \frac{2}{h} \sum_{m=1}^{\infty} C_{m} \left(\frac{2\pi r_{0}k}{cq}\right) A_{m}K_{1}(\beta_{m}r_{0}) \left[\frac{\cos\beta_{s}h - 1}{\beta_{s}} + \frac{\beta_{m}(\sin\beta_{m}h\sin\beta_{s}h) + \beta_{s}(\cos\beta_{m}h\cos\beta_{s}h - 1)}{\beta_{m}^{2} - \beta_{s}^{2}}\right]$$

$$(s=1, 2, 3, \dots, (9'_{s})$$

(196)

此の一群の聯立方程式から A<sub>s</sub>(s=1, 2, 3, .....) を決定することが出來る。而して之 等を式(7)及び(8)に代入すれば I(r, z)及び 0(z)は完全に求められる。

然れども此等の解は數計算をなすには不便である。それで茲には導管内の溫度分布に就いての近似式を適用して地層に於ける溫度分布を計算するに便宜な式に更める。

瀬野錦藏氏が得られた近似式は

 $\theta(z) = \alpha + \beta(h-z) + \frac{\theta}{\gamma} \{1 - e^{-rzl}\} \qquad \dots \dots \dots \dots \dots (a)$ 

である。之を級數に展開すれば次の如くなる。

$$\theta(z) = \alpha + \beta h - \frac{\beta \gamma}{2!} z^2 + \frac{\beta \gamma^2}{3!} z^3 - \frac{\beta \gamma^3}{4!} z^4 + \cdots + (a')$$

γ が小であるから γ² 以上の項を無視すれば

$$\mathfrak{g}(z) \doteq \alpha + \beta h - \frac{\beta \gamma}{2} z^2 \qquad \cdots \qquad (a'')$$

温泉水の層に於ては次の條件が滿足されて居ると假定することが出來る。

$ 0 _{z=0}=0_b$	(b <sub>1</sub> )
$\left  \frac{d\theta}{dz} \right _{z=0} = 0$	(b <sub>2</sub> )

地面に於ては次の條件が滿足される。

茲に >, 0' は何れも式 (3) に於けるものと同一の値をとると假定する。 斯くの如く假定すれば式 (a") は次の如くなる。

$$\theta(z) = \theta_b - \frac{\lambda h}{\lambda h + 2} (\theta_b - \theta') \left(\frac{z}{h}\right)^2 = \theta_b - (\theta_b - \theta_u) \left(\frac{z}{h}\right)^2$$
(10)

此の近似式を用ひることにすると、式(xii)は

$$-\int_{0}^{\hbar} \left[ \left( \theta_{b} - \theta(\xi) \right) \sin \beta_{s} \xi d\xi \right]$$
$$= \left( \left( \theta_{b} - \theta' \right) - \frac{\cos \beta_{s} h}{\beta_{s}} + \frac{2\left( \theta_{b} - \theta_{u} \right)}{h^{2}} - \frac{1 - \cos \beta_{s} h}{\beta_{s}^{3}} - \dots \right)$$
(xiii)

1) 瀬野錦藏: 温泉湧出導管中に於ける温度垂直分布の近似解,本誌本號 187 頁

となるから式 (9.) より

之を式(7)に代入して次の結果が得られる。

$$T(\mathbf{r}, z) = \theta_{b} - \frac{\lambda \hbar}{1 + \lambda \hbar} (\theta_{b} - \theta') \frac{z}{\hbar} + \frac{2}{\hbar} \sum_{s=1}^{\infty} C_{s} \frac{2(\theta_{b} - \theta_{u})}{\hbar^{2}} \frac{(1 - \cos\beta_{s}\hbar)}{\beta_{s}^{3}} \frac{K_{1}(\beta_{s}\mathbf{r})}{K_{0}(\beta_{s}\mathbf{r}_{0})} \sin\beta_{s}z$$

$$(11)$$

今  $\beta_s h \equiv \alpha_s$  即ち  $\alpha_s \approx \cot \alpha_s = -\frac{\lambda h}{\alpha_s}$ の s 番目の正根とすれば  $C_s = -\frac{1}{1 + \frac{\cos^2 \alpha_s}{\lambda h}}$ とな り、而して T(r, z) は次の如くなる。



### 3 地層に於ける温泉の影響範圍

昭和十一年八月瀨野, 西田兩氏は別府溫泉 No. 434 ノ 1 等に就いて溫泉導管內の溫度 分布を實測された。その結果の一部を拜借して數計算をなさん。

別府溫泉 No. 434 ノ 1 に就いて, 干潮時に於ける實測の結果は次の表の通りである。 但し 0<sub>6</sub>=48.<sup>5</sup> である。

觀測日時	深度温度	140m	120m	100m	80m	60m	40m	20m	0 <b>m</b>
八月三日	θ	47.°5	46.°8	45.°8	44.°5	42 <b>.</b> °5	40.°5	39.°1	88.°0
~15時24分	θ <sub>b</sub> -θ	1.°0	1.°7	2.°7	4.°0	6.°0	8.°0	9.°4	10.°5
八月四日	θ	<b>47.</b> °5	47.°0	46.°0	44.°5	43.°0	40.°5	39.°0	37.°0
14時49分 ~16時0分	θ <sub>b</sub> -θ	1.°0	1.°5	2.°5	4.°0	5.°5	8.°0	9.°5	11.°5

表 [ (別府溫泉 No. 434 ノ 1) 溫泉の導管内の溫度分布

温泉上昇が附近地温に及ぼす影響範圍に就て

八月五日 14時43分	θ	47.° <b>4</b>	47.°0	46.°0	44. 7	43.°0	41.°0	39.°5	37.°5
~16時01分	$\theta_D - \theta$	1.°1	1.'5	2. 5	3.°8	5.°5	7.'5	9.°0	11.'0
于潮時	θ	47.°47	46.°93	45.°93	44.°57	42.°83	40.°67	39.°20	37.°50
平 均	θ <sub>6</sub> θ	1.°03	1.°57	2.°57	3.°93	5.°67	7.°83	9.°30	1 <b>1.°0</b> 0

此の實例に就いて以下の數計算を進める。

(1) 泉底の恒溫層の深されと其處での温度  $\theta_b$ :上の實測値から $\frac{d0}{dz}$ =0 なる條件を 滿足する深されを推定すれば h=200m なる結果が得られる。是が吾人の假定せる溫泉水 の層の深さである。然るに野滿教授・山下氏の研究に依れば別府溫泉 No. 434 / 1 附近 での採水層即ち所謂 SG 層の深さは約 180m 乃至 200m である。されば吾人が茲に推定 せる深さと大略一致する。依つて以下の計算に於て泉底の恒溫層の深さ(h) として 200m をとる。

次に導管内の温度分布圖を深さ 200m に於て  $\frac{d\theta}{dz}$ =0 なる條件を滿足する様に延長して  $\theta_b$  を推定すれば  $\theta_b$ =48.°5 となる。

(2) 導管内の温度分布の實測値と其の計算値との比較:前節に於ける導管内の溫度分 布に就いての近似式

に依る計算値と實測値とを比較すれば次の表の如くなる。

θ(z)		深度	140m	120m	100m	80m	60m	40m	20m	0m
實	測	値	47.°47	46.°93	45.°93	<b>44.°</b> 57	42.°83	<b>40.°6</b> 7	39.°20	37.°50
計	算	值	47.°51	46.°74	45.°75	44.°54	43.°11	41.°46	39.°59	87.°50
	差		-0.°04	0.°19	+0.°18	+0.°03	—0.°27	—0.°79	-0.°39	

表 [] 導管内の温度分布の質測値と計算値との比較

上の表に示せる如く, 深さ 40m に於て多少の差異があるが其他の深さに於ては實測値 と計算値とが近似して居る。故に近似式(10)は實際によく適合する。從つて式(11)等 を實例に適用して差支へないことが知られる。

1) 野滿隆治,山下馨: 別府舊市內の地中溫度と溫泉脈,本誌第2卷第3號233頁

前節に於て地表での條件を

### と假定した。

今  $\theta_u$ =37.°5, (A)  $\lambda_h$ =5, (B)  $\lambda_h$ =10 として式 (c<sub>1</sub>) から  $\theta$  を求むれば次の結果が得られる。

 $\left| \frac{d^{3}}{dz} \right|_{z=h}$ の實測値を式 (c<sub>2</sub>) に代入して  $\theta'$ を求むるも亦上と同様の結果が得られる。 實測の日時は八月三, 四, 五日の 14 時と 16 時との間であるから氣溫  $\theta'$  は 33.°1 乃至 35.°3 程度であつたと想像される。それ故に地表に於ける實際の狀態も (A), (B) の二つの場合 に近似せりと推定される。依つて茲には (A)  $\lambda h=5$ ,  $\theta'=33.°1$  及び (B)  $\lambda h=10$ ,  $\theta'=35.°3$ の二つの場合に就いて地層の溫度分布を計算する。又導管の半徑は  $r_{0}=2.15$ cm である。

(4) 地層での温度分布と影響範圍の推定:  $0_{b}$ ,  $\theta_{w}$ ,  $\theta'$ , h,  $r_{0}$ ,  $\lambda h$  が與へられたのである から,式 (11') を適用して T'(z) 及び T''(r, z) 従つて T(r, z) を計算することが 出來る。深さ 0, 20m, 40m, 80m, 100m, 120m, 140m 即ち z/h=1,  $\frac{9}{10}$ ,  $\frac{8}{10}$ ,  $\frac{7}{10}$ ,  $\frac{6}{10}$ ,  $\frac{5}{10}$ ,  $\frac{4}{10}$ ,  $\frac{3}{10}$  に於ける T'(z) を計算し, 各深さに於て  $r=r_{0}$ , 200 $r_{0}$ , 400 $r_{0}$ , 600 $r_{0}$ , 800 $r_{0}$ , 1000 $r_{0}$ , 1500 $r_{0}$ , 2000 $r_{0}$ , 2500 $r_{0}$ , 3000 $r_{0}$ , 3500 $r_{0}$ , 4000 $r_{0}$ , 4500 $r_{0}$ , 5000 $r_{0}$ , 5500 $r_{0}$  の點での T''(r, z) を計算した。 従つて (A), (B) の二つの場合に就いて地層に於ける各點での溫 度 T(r, z) が求め得たのである。其の計算の結果は表 III (A) 及び表 III (B) に示す 通りである。

(200)

<b>度</b> r <sub>0</sub> 200r <sub>0</sub> 400r <sub>0</sub> 600r <sub>0</sub>	$r_0$ 200 $r_0$ 400 $r_0$ 600 $r_0$	2007 <sub>6</sub> 4007 <sub>6</sub> 6007 <sub>6</sub>	400r <sub>0</sub> 600r <sub>0</sub>	600%		800%	1000%	1500%	2000 <b>%</b>	2500%	3000%	3500ro	4000r	4500 <b>r</b> ₀	5000%	5500r		8
<i>T''</i> 1.°83 0.°64 0.°50 0.°41	.°83 0.°64 0.°50 0.°41	0.°64 0.°50 0.°41	0.°50 0.°41	0.°41		0.°35	0.°31	0.°23	0.°18	0.°14	0.°11	0.°09	0.°08	0.°06	0.°05	0.°04		0. 00
T 37.°50 36.°31 36.°17 36.°08	2.°50 36.°31 36.°17 36.°08	36.°31 36.°17 36.°08	36.°17 36.°08	36.°08		36.°02	35.°98	35.°90	35.°85	35.°81	35.°78	35.°76	35.°75	35.°73	35.°72	35.°71		35.°67
<i>T''</i> 2.°64 0.°93 0.°73 0.°60	2.°64 0.°93 0.°73 0.°60	0.°93 0.°73 0.°60	0.°73 0.°60	0.°60		0.°52	0.°45	0.°33	0.°26	0.°20	0.°16	0.°13	0.°11	0.°09	0.°07	0.°06		0. 00
T 39.°59 37.°88 37.°68 37.°55	a.°59 37.°88 37.°68 37.°55	37.°88 37.°68 37.°55	37.°68 37.°55	37.°55		37.°47	37.°40	<b>37.°2</b> 8	37.°21	37.°15	37.°11	37.°08	37.°06	37.°04	37.°02	37.°01		36. 95
<i>T''</i> 3.°22 1.°16 0.°91 0.°75	8.°22 1.°16 0.°91 0.°75	1.°16 0.°91 0.°75	0.°91 0.°75	0.°75		0.°64	0.°55	0.41	0.°32	0.°26	0.°20	0.°17	0.°14	0.°11	0.°09	0.°08		0. 00
T 41.°46 39.°40 39.°15 38.°99 3	.*46 39.*40 89.°15 88.°99 8	39.°40 89.°15 88.°99 8	39.°15 38.°99 3	38.99 3	<b>~</b>	8.88	38.°79	38.°65	38.°56	38.°50	38.°44	38.°41	38.°38	38. 35	38.°33	38.°32	!	38.°24
<i>T''</i> 3.°59 1.°29 1.°01 0.°83	3.°59 1.°29 1.°01 0.°83	1.°29 1.°01 0.°83	1.°01 0.°83	0.°83		0.°72	0.°62	0.°46	0.°36	0.°29	0.°23	0.°19	0.°16	0.°13	0.°10	0.09		0. 00
T 43.°11 40.°81 40.°53 40.°35 40	3.°11 40.°S1 40.°53 40.°35 40	40.°81 40.°53 40.°35 40	40.53 40.35 40	40.°35 4(	4	0.°24	40.°14	39.°98	39.°88	39.°81	39.°75	39.°71	39. 68	39.°65	39.°62	39.°61	1	89.°52
<i>T</i> " 3.°74 1.°34 1.°05 0.°87 C	3.°74 1.°34 1.°05 0.°87 0	1.°34 1.°05 0.°87 0	1.°05 0.°87 0	0.°87 0		°75.	0.°65	0.°48	0.°38	0.°30	0.°24	0.°20	0.°16	0.°13	0.°11	0.°09		0. 00
T 44.°54 42.°14 41.°85 41.°67 4.	1.°54 42.°14 41.°85 41.°67 4	42.°14 41.°85 41.°67 4	41.°85 41.°67 4	41.°67 4	4	1.°55	41.°45	41.°28	41.°18	41.°10	41.°04	41.°00	40.°96	40.°93	40.°91	40.°89	I	40.°80
T'' 8.°67 1.°31 1.°03 0.°85 (	3.°67 1.°31 1.°03 0.°85 (	1.°31 1.°03 0.°85 (	1.°03 0.°85 (	0.°85 (		0.°73	0.°63	0.°47	0.°37	0.°29	0.°23	0.°19	0.°16	0.°13	0. 11	0.°09		0. 00
T 45.°75 43.°39 48.°11 42.°93 4	3.°75 43.°39 48.°11 42.°93 4	43.°39 43.°11 42.°93 4	43.°11 42.°93 4	42.°93	4	2.°81	42.°71	42. 55	42.°45	42.°37	42.°31	42.°27	42.°24	42.°21	42.°19	42.°17		42.°08
<i>T''</i> 8.°37 1.°20 0.°94 0.°78	3.°37 1.°20 0.°94 0.°78	1.°20 0.°94 0.°78	0.°94 0.°78	0.°78		0.°66	0.°58	0.°43	0.°33	0.°26	0.°21	0.°17	0. <sub>°</sub> 14	0.°12	0.°10	0.°08		0. 00
T 46.°74 44.°57 44.°31 44.°15 4	3.°74 44.°57 44.°31 44.°15 4	44.°57 44.°31 44.°15 4	44.°31 44.°15 4	44.°15 4	4	4.°03	43.°95	43.°80	43.°70	43.°63	43.°58	43.°54	43.°51	43.°49	43.°47	43.°45		43.°37
T'' 2.°86 1.°02 0.°79 0.°65	2.°86 1.°02 0.°79 0.°65	1.°02 0.°79 0.°65	0.°79 0.°65	0.°65	[	0.°56	0.°48	0.36	0.°27	0.°21	<b>ó</b> .°17	0.°14	0.°12	0.°09	0.°08	0.°07		0. 00
T 47.°51 45.°67 45.°44 45.°30	7.°51 45.°67 45.°44 45.°30	45.°67 45.°44 45.°30	45.°44 45.°30	45.°30		45.°21	45.°13	45.°01	44.°92	44.°86	44.°82	44.°79	44.°77	44.°74	44.°73	44.°72		44.°65

Ⅱ(A) 地層に於ける溫度分布(№=5, θ'=33.°1)(n=2.15cm)

敤

(201)

温泉上昇が附近地温に及ぼす影響範圍に就て

8	0.°00	36.°50	0.°00	37.°70	0.°00	38.°90	0.°00	40.°10	0.°00	41.°30	0.°00	42.°50	0.°00	43.°70	0.°00	44.°90
5500r <sub>0</sub>	0.°02	36.°52	0.°04	37.°74	0.°05	38.°95	0.°06	40.°16	0.°07	41.°37	0.°07	42.°57	0.°06	48.°76	0.05	44.°95
5000 <b>%</b>	0.°02	36. 52	0.°05	37.°75	0.°06	38.°96	0.°08	40.°18	0.°08	41.°38	0.°08	42.°58	0.°08	43.°78	0.°06	44.°96
4500r <sub>6</sub>	0.°03	36.°53	0.°05	87.°75	0.°08	38.°98	0.°09	40.°19	0.°10	41.°40	0.°10	42.°60	0.09	43.°79	0.°08	44.°98
4000%	0.°03	36.°53	0.°07	37.°77	0°.0	38.°99	0.°11	40.°21	0.°12	41.42	0.°12	42.°62	0.°11	43.°81	0.00	44.°99
3500%	0.°04	36.°54	0.°08	37.°78	0.°11	39.°01	0.°14	40.°24	0.°15	41.°45	0.°15	42.°65	$0.^{\circ}1\overline{4}$	43.°84	0.°12	45.°02
3000%	0.°05	36.°55	0.°10	37.°80	0.°14	39.°04	0.°17	40.°27	0.°19	41.°49	0.°19	42.69	0.°18	43.°88	0.°15	45.°05
2500ro	0.°07	36.°57	0.°13	37.°83	0.°18	39.°08	0.°22	40.°32	0.°24	41.54	0.°24	42.°74	0.°22	43.°92	0.°18	45.°08
2000%	0.°08	36.°58	0.°17	37.°87	0.°23	39.°13	0.°28	4Ó.°38	0.°31	41.°61	0.°31	42.°81	0.°28	43.°98	0.°24	45.°14
1500r <sub>0</sub>	0.°12	36.°62	0.°22	37.°92	0.30	39.°20	0.°37	40.°47	0.°40	41.°70	0.°41	42.°91	0.°38	44.°08	0.°31	45.°21
1000%	0.°16	36.°66	0.°30	38.°00	0.°42	39.°32	0.°50	40.°60	0.°54	41.°84	0.55	43.°05	0.°51	44.°21	0.°43	45.°33
800%	0.°18	36.°68	0.°35	38.°05	0.°49	39.°39	0.°58	40.°68	0.°62	41.°92	0.°63	43.°13	0.°58	44.°28	0.°49	45.°39
600%	0.°21	36.°71	0.°41	38.°11	0.°57	39.°47	0.°68	40.°78	0.°73	42.03	0. 73	43.°23	0.°68	44.°38	0.°58	45.°48
400%	0.°26	36.°76	0.°50	38.°20	04°,0	39.°50	0.°83	40.°93	0.°89	42.°19	0.°89	43.^39	0.°83	44. 53	0.°71	45.°61
200%	0.°34	36.°84	0.°66	38.°36	0.°84	39.°74	1.°08	41.°18	1.°16	42.°46	1.°16	43.°66	1.°08	44.°78	0.°93	45.°83
%	1.°00	37.°50	1.°89	39.°59	2.°56	41.°46	3.°01	43.°11	3.°24	44.°54	3.°25	45.°75	3.°04	46.°74	2.°61	47.°51
温康	T"	T	T"	T	$T^{\prime\prime}$	Г	Τ"	T	T"	T	T''	T	T"	Г	<i>T</i> "	T
楽	<u>ب</u>		αų <sub>0</sub>		Ę	THOP	.0~		802 7	III.	100	TIMI	19.0		1 (0	TIMET

## 溫泉上昇が附近地溫に及ぼす影響範圍に就て

(202)

١

1) 地層に於ける温度分布(ハカ=10, θ'=35.3) (n=2.15cm)

ţ

表 II (B)

.

.

### 溫泉上昇が附近地温に及ぼす影響範圍に就て

次に溫泉導管の影響範圍を知るために溫度 1<sup>1/1</sup>(r, ₂)の 分布から 0.°1, 0.°5, 1.°0, 1.°5 の等溫線を求めた。其の結果は圖 2(A) 及び圖 2(B) に示す通りである。



以上の計算の結果に依つて知り得た主な事項は次の通りである。

(203)

#### 温泉上昇が附近地温に及ぼす影響範圍に就て

(1) 導管の影響範圍は深さ 80m 乃至 100m に於て最大である。即ち導管の全深の略 ほ中央の地層に於て比較的に廣い 範圍まで其の影響が及ぶ。 例へば 0.°1 程度の影響は導 管から 90m 乃至 120m の範圍にまで及び, 0.°5 程度の影響は 20m 乃至 30m の範圍ま で, 1°程度なら 6~8m の範圍まで及ぶ。

(2) 然し地表面近くでは溫泉管の影響は極めて 近距離に限られ、1°程度の影響は無いか,あつても 1m 以内に限られ、0.°5 の影響でも 1~8m の範圍にすぎぬ。

(3) 氣溫が比較的低く, 地表での冷却係數が小なるほど 其の影響範圍は比較的に廣くなる。

以上の計算は一例に就いてであるが他の例に就いても同様の方法と手續で計算出來る。 第2節に於て假定せる泉底の溫泉水の層での境界條件は泉底の恒溫層の深さ及び其處での 溫度を推定するためのものであり,又地表での境界條件は冷却係數等を推定するためのも のである。

導管内の温度分布に就いては實驗式を用ひた。それで他の例に就いても全く同様に計算 出來る。

要するに本論文に於ては溫泉上昇が導管附近の地溫に及ほす影響範圍を推定する方法を 示し、實例に就いて其の影響範圍を推定したのである。

終に此の問題を與へられ且つ種々御指導を賜つた野滿教投に深く感謝の意を表する。